2020年（令和2年）
第151号
（7月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

大聖堂ご命日　導師挨拶　常務理事　佐藤益弘　～6月15日 釈迦牟尼仏ご命日～

日々ありがとうございます。只今は、釈迦牟尼佛ご命日ならびに布薩の日のご供養をさせて頂きました。お蔭さまにて全国の会員の皆さまと共に読経させて頂くことができ、誠に有難く、感謝申し上げます。

６月に入り半月が過ぎる訳ですが、６月は、日本では『水無月(みなづき)』とも申します。皆さまご存知の通り、漢字で水が無い月と書きます。

インターネット百科事典「ウィキペディア」によりますと、その由来は諸説あるようですが、この「無(い)」という字は「の」を意味する字で、つまり「水の月」という意味だそうです。田植えが終わって田んぼに水を張る月で、夏場に必要な水を貯水する重要な月です。水を大切にしつつ、水への感謝の念を一層持たせて頂きたいものです。

さて、６月の機関誌『佼成』では、「怠け心に負けない」というご法話を会長先生から頂戴しました。そのご法話の中で、妙法蓮華経安楽行品第十四のお経文から、「一切を慈悲して懈怠の心を生ぜざれ」という一節を引用され、「人を思う気持ちが盛んなときは、飽きたり怠けたりする心が生まれない。

それはつまり、〝自分を待っていてくれる人がいる〟と思うと、自己中心の思いから離れその人の役に立ちたいという願いが湧いてきて、精進の一つ一つが喜びや楽しみに変わる」と教えてくださっています。

＝中略＝

今日は、六月の『六』の数字が名称に付く「六花の会／りっかのかい」についてお話を申し上げたいと思います。

昭和３０年代に佼成会に入会以来、開祖さまのみ教えを学び実践し、更に京セラの会社で働き、経営者としても実績をあげられた今は亡き福永正三先生が、経営者の方々と仏教精神に基づいて研鑽を重ねられました。

そして、平成３０年１２月１６日、立正佼成会創立８０周年記念事業として、ここ大聖堂で「第１回仏教精神に学ぶ経営者の集い」が催されました。それに合わせて発刊されたのが『庭野日敬　経営者心得帖』です。

それ以後、仏教精神を学び、経営に活かしてゆこうではないかとの大勢の願いによって創られたのが「六花の会」です。一昨日もオンラインによる代表世話人会が開かれたところです。その『経営者心得帖』がメンバーの座右の書となっています。

この中にも「精進」に関する記述がございます。その中の一つを要約してご紹介しますと、【気の合う人とばかりつきあっていると、人間は成長できない。会社の社長さんでも、何を言っても「社長のおっしゃるとおりです」と相づちを打つような人間をとりまきにしておけば、そのうちに会社が左前になりかねない。

しかし、自分の言うことに反論し、耳ざわりなことをいう人間がそばにいてくれると心にゆるみが出ない。「きょうはちょっと怠けたいなあ」という気持ちが頭をもたげても、「いやいや。みんなの目があるから自分勝手はできない」と自分を戒める。だから精進が続く…】と開祖さまは教えてくださっています。

今、経営者の皆様も新型コロナの影響による被害を受け、大変なご苦労をされています。そのような中にあっても仏教精神に基づき、日々、忍辱・精進されています。私共もあらん限りの力を以て応援して参りたいと思います。

先程、６月は「水の月」であると申しました。この「水の…」ということで想い起こされるのが、会長先生のご著書『こころの眼を開く』であります。そのご本の表紙をめくりますと、「水の流るゝ如く」という会長先生のご揮毫がございます。

川を流れる水は岩にぶつかっても、文句ひとつ言わず、その脇を上手に流れていきます。いちいち引っ掛かりません。ただ自然にまかせて流れ続けます。そういう「水の流るゝ如く」精進することが常精進であると私は受けとらせて頂きました。

数日前から全国各地の新聞紙上において『庭野日敬平成法話集２　我汝を軽しめず』発刊の広告が掲載されています。

いよいよ３日後の１８日から販売が開始されます。会長先生から学び、実践することの大切さを常々教えて頂いている私たち佼成会員は、開祖さまのご法話を通して仏さまの教えを学び、菩薩行の実践に励むという精進を続けて参りたいと思う次第です。

皆さまの今後益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、本日のお役に代えさせて頂きます。誠に有難うございました。

＜本部ホームページより抜粋＞

今月のことば　～いま、自分にできることを～　西京支部壮年部　澤村悦玄

日々ありがとうございます。今月は、西京支部の澤村が担当させて頂きます。よろしくお願いします。

コロナ禍の中で自粛し教会に参拝できなくなり約３カ月が経ちました。それでも私が佼成会の会員である理由は、そうでなくなると善人で居られる自信がないからです。

人と触れ合わなくなり世界観が狭くなると「私だけ良ければ」の気持ちが湧いてきます。特に社会変化が激しい今は、より一層その気持ちが強くなります。

ですがその気持ちに「よく考えてみて？」と問いかけてくれるのが仏さまのみ教えです。信仰者として「すべての人々を救いたい」とまで考えられなくても、社会生活をしている以上「世の中の役に立てる私でありたい」この思いだけが私の支えで最後の砦です。

また情報が多くなるとすぐにそれに反応して買い占めや、不安を払拭しようと言う気持ちになります。そのままに行動すると世の中が一方向に動きだし大変危険な世の中を作り出すことになります。

社会批判や政権批判も同じで全ては私たち自身に帰ってきます。この世の中を作り出すのは私たち自身で全ては自身の鏡です。そんな時、粛々と自分たちの責任を全うすることは教えて頂く通り大切です。

社会に不満があるなら選挙に行き、品物を購入する前によく考え無駄や食品ロスをなくす。目の前に在ることに一生懸命になる。しかし世界は資本主義を中心に動いており「お金」が中心とも言えます。または購買消費社会とも言えると思います。

事実それが私たちの生活でこの世を発展させてきた要因です。今回のコロナウイルスは今までの価値観に警鐘を鳴らして私たちに働きかけているように感じます。会社の自粛時短期間中、朝は家族でラジオ体操。昼は家の整理に日曜大工。夕方は家内と三部経の通読をしていました。

どこにも外出できない濃密な家族との触れ合いで気が付いたことがあります。私の家族の在り方は「消費・購買」によりつながっていたことです。

美味しいものを買ってあげる。休みに楽しいところに連れて行ってあげる。欲しいおもちゃを買ってあげる。それが出来なくなると今までの家族の在り方が急に揺らいで来たのを夫婦で感じました。

そして、躾として子供にお手伝いを分担させていますが、生活や生きるための共同作業分担で無く躾の範囲を超えないことに気が付きました。

私の家庭では子供が日々の生活の責任を負わず、勉強と遊びのみの毎日です。友人に聞いてもこれは一般的な様ですが、これでいいの？と家内と話し合いました。結果は出ませんでした。ですが日々の発展した生活に感謝しよう、恵まれた環境に感謝しようでした。

毎日が少なくとも命の心配がないことに。毎日が不自由ないことに。その上で子供たちには自分の事は自分でしてもらおう。食事の給仕・布団の上げ下ろし等ですが、促す親にも覚悟と一貫性が必要で結構疲れます。始めてみたもののこれでいいのか？と悩んでいます。

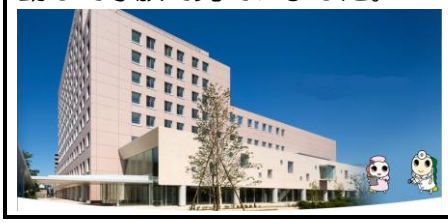
そんな時に会長先生が四弘誓願を私にもわかるように教えて下さいました。何か私たちの家庭の悩みのヒントを頂いたように感じます。もう一度家内と相談して三つの実践と共に子供たちとも話し合ってみたいと思います。

合掌

新型コロナウイルスによる活動自粛　～会員の取り組み～

今年のゴールデンウィークには、買い出しは「２回だけ」にして、家族で智恵を振り絞って食事メニューを考えました。

ちょうど数年前に放送されたテレビドラマ『JIN』が再放送され、恐ろしい伝染病「コロリ（コレラのこと）と孤軍奮闘してる仁先生が、そのまま現代のコロナと向き合う医療従事者の方々の姿と重なり、毎日感動して家族で見ていました。



写真は「佼成病院」のホームページから

お裁縫が得意でとてもマメなある支部長さんが、我が家に手作りマスクを数枚送って下さいました。実は、以前にも送って下さったのですが「学校も再開したので、まだまだ必要かと思って」というお心からでした。

色とりどりのマスクはどれも可愛いものばかりで同じ柄はなく、子供たちも使うのがもったいながっていますが、『支部長さんの人を思う気持ち』が私の家族にも充分に伝わりました。

お金も時間も手間もかけて作って送って下さり、教えの実践はこういうことだと思いました。手作りマスクが私にも家族にも教えを広めて下さったようで、とてもありがたかったです。

今月は「時事刻々」をお休みさせて頂きます。

これから暑い季節を迎えます　～熱中症予防行動に努めましょう～

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の３つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「３密（密集、密接、密閉）」を避ける等の**「新しい生活様式」が求められています**。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1　暑さを避けましょう

・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
・暑い日や時間帯は無理をしない
・涼しい服装にする
・急に暑くなった日等は特に注意する

2　適宜マスクをはずしましょう

・気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意
・屋外で人と十分な距離（２メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

3　こまめに水分補給しましょう

・のどが渇く前に水分補給
・1日あたり１.２リットルを目安に
・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

4　日頃から健康管理をしましょう

・日頃から体温測定、健康チェック
・体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養

5　暑さに備えた体作りをしましょう

・暑くなり始めの時期から適度に運動を
・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

環境省・厚生労働省発行
「令和２年度の熱中症予防行動」より抜粋

日常生活の中の仏教用語　～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【憤怒（ふんぬ）】

ひどく怒ること。「ふんど」とも読むが、「ふんぬ」が正しい。

仏教では「忿怒」と書き、修行の妨げとなるまちがった心の動きのひとつ。「忿」は、自分の意図に反することに対する怒りを意味する。

仏像には、四天王、十二神将、不動明王、愛染明王、金剛力士など、「忿怒相」のものがある。これらの仏たちの怒りの対象は、仏の道を邪魔する悪や煩悩、仏法と、仏法に従う人たちを邪悪から守る、厳しい形相が表現されたもの。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭野日敬開祖　法話集 ～開祖随感より～

「困難が発奮材料」

幸福の女神を「ぜひともわが家においでいただきたい」と招いたら、妹の不幸の女神も一緒についてきてしまった、という話があります。幸福もその裏側に落とし穴があるわけです。同じように、不幸も裏返すとそこに幸福の芽が隠されています。

自分では一生懸命に努力しているつもりなのに、人に誤解されたり嫌われてしまうことがあります。精いっぱいがんばっているのに、逆の結果ばかり出ることもあります。それが続くと、だれもが腐ってしまうのですが、私は、みなさんが頭を抱え込むような、真っ青になるようなことが起こると、「いよいよおもしろくなってきたぞ」と、自分に言い聞かせるのです。

自分に不利なことも功徳と受け取る。逆縁も善縁と考えて、努力して解決をめざす。それが仏道修行だと思うのです。　私は若いころ、「あんたは毎日が平穏無事で刺激がないと、のんびりしてしまう。なにか事が起こると発奮する人だ」と言われたことがありました。難題が私には発奮材料なのです。

精いっぱい努力をしていれば、必ず見ていてくださる人がいます。かりにだれが見ていなくても、仏さまはすべてご照覧です。それを信じられなくては本物の信仰者といえないと思うのです。

「人生ドラマのヒーロー」

テレビドラマなどを見ていると、次々に事件が起こり、主人公がそれに取り組んで問題を解決していきます。そこがドラマのおもしろさですが、それは人生の縮図ともいえます。私たちの人生は、解決を迫られる問題の連続です。家庭でも、夫婦で意見が衝突したり、家族が病気になったり、子どもが反抗したりと、心配ごとの絶え間がありません。

けれども、それがじつは家庭のゆがみに気づかせ、その立て直しを願う家族の訴えの軋みなのですね。そこで、ただ困った困ったと頭を抱えて、その場をとりつくろおうとするよりも、その“症状”の底にあるものに気づくことが大事です。信仰というと、無病息災、家内安全、商売繁盛を願うことのように思われがちですが、そうではありません。

次から次へと問題が起こってくる人生だからこそ、それに立ち向かい、それを乗り越える力をつけてしまう。その力を与えてくれるのが信仰なのです。こっちがその力を具えてしまえば、どんな問題が起ころうと、平然と対処していけます。それが本当の平穏無事です。自分が自分の人生の主人公になるのです。

「法の光を発して」

仏法のありがたさを知りながら、それを自分の胸の中だけにしまっておくのでは、懐中電灯を自分の懐の中だけで光らせているようなものです。懐中電灯は、自分の足元を照らすだけでなく、暗闇で道を失っている人の足元を照らし、道を踏み外さないようにしてあげてこそ真価が発揮されます。それが菩薩の生き方にほかなりません。

私たちが毎日、朝夕に読誦（どくじゅ）している『経典』の開経偈（かいきょうげ）には、「無上甚深微妙の法は、百千万劫（ごう）にも遭遇（あい）たてまつること難し。我今見聞し受持することを得たり」とあります。そして『経典』の終わりの普回向（ふえこう）で、「願わくは此の功徳を以て　普（あまね）く一切に及ぼし　我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん」と唱えます。百千万劫という年月をかけても遇うことが難しい至高の仏法に遇い得た私たちは、それを「あまねく一切の人びとに及ぼす」ために“選ばれた人”なのです。その役割を仏さまに託されているのです。

人びとの足元を照らしてあげるのには、まずわが身を法の光で輝かさなくてはなりません。それが自行です。自ら光を発する者となってこそ、多くの人びとに法の光に浴してもらうことができます。それが化他行（けたぎょう）です。　（つづく）

７～８月の主な教会行事

７月・８月　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての行事は中止しています。

●行動自粛が解除され、新しい生活様式が求められる中、ご著書をじっくり読ませて頂く時間に出来るかもしれません。
今の時間を生かして、自身の充電期間にあてられるのはいかがでしょうか。
また本部のホームページから、会長先生の毎月のご法話など、拝読できます。
http://www.kosei-kai.or.jp/　をパソコンやスマホでご覧下さい。

●メッセージ

都道府県境の行動自粛が全面解除されたことで、京都府市にも観光客が戻りつつあるようです。新しい生活様式を守りつつも、感染拡大前の人の移動に徐々に戻ることで、新型コロナウイルスがなくなったような、まるでウイルスを克服したような錯覚になりますが、「見えないですが、確実にある」ということだと思います。私たちの信仰の対象である「本仏」も見えないですが、確実にあり、存在します。今回の感染拡大をきっかけにと言えば語弊がありますが、「見えないが存在する」という意識が国民の皆さんに広まれば、「生かされている」と思えるのではないでしょうか。